

On a New Hybrid Fern of Japan

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2022-03-23 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/00065681

This work is licensed under a Creative Commons
Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0
International License.



Flores albi.

Nom. Jap. Shirobana-otafuku-gibōshi (nov.).

Hab. Hondo : Yotsuya, Hakuba-mura, prov. Shinano (leg. J. Ōhara, Aug. 6, 1957—Typus in Herb. Nagoya City Univ.)

3. スジホウチャクソウ

昭和31年5月10日愛知県岡崎市岩津町において通常のホウチャクソウ中に混じて一株だけ変ったものを採取した。葉に見事な黄色の縦斑がある。

Disporum sessile D. Don forma **variegatum** Ōhara, f. nov.

Folia aureo-variegata.

Nom. Jap. Suji-hōchakusō (nov.).

Hab. Hondo : Iwazu, Okazaki-shi, prov. Mikawa (leg. J. Ōhara, May 10, 1956—Typus in Herb. Nagoya City Univ.)

最後に本研究につき特に御指導を賜った名古屋市立大学生物学教室豊島鍊三先生に深く感謝致します。

杉本順一※ シダ類の1新間種

J. Sugimoto : On a New Hybrid Fern of Japan

ヲシダ *Dryopteris crassirhizoma* Nakai と ミヤマクマワラビ *D. polylepis* C. Chr. の間種について報告する。本間種は既に早く知られたもので1938年に徳田裕邦君が静岡県(駿河)大淵村字坂で採集されたものである。本間種と両親と見るべきものの比較は次の如くである。

ミヤマクマワラビ：葉は一般に細長くてその葉柄は葉身長約 $\frac{1}{2}$ 位である。柄の鱗片は帯黒色、葉の裂片は細くて幅2~3mm、ソーラスは辺寄りに着く。細脈は分岐しない。

オシダ：葉は一般に大形のもの多く、葉柄は短くて葉身長約 $\frac{1}{2}$ 位の程度、その鱗片は変化多きも、黄色、褐色乃至暗褐色等であるが黒色でない。葉裂片の幅5~6mm、ソーラスは中肋寄りに着く。細脈は分岐する。

クマオシダ(間種)：葉は両者の中間性を示す。葉柄は葉身長約 $\frac{1}{2}$ 長、その鱗片は最脚の大形のは黄褐色、他の柄部のものは褐色。葉裂片の幅3~4mm、小脈は単一又は2岐する。ソーラスは中間生(中肋と辺との中間)

Dryopteris × **Tokudai** Sugimoto hybrid. nov.

D. polylepis C. Chr. × *D. crassirhizoma* Nakai.

Rhizoma erectum. Stipes ca 23 cm longus, squamis basalibus majoribus lanceolatis flavocastaneis margine integris, squamis ceteris linearis castaneis. Lamina

※ 静岡市八幡本町5丁目9

oblanceolata 60 cm longa 24 cm lata, apice subito acuminata pinnata, pinnis ca 30-jugis basi sessilibus 23 mm latis pinnatisectis, segmentis oblongis apice subtruncato-rotundatis margine serrulatis 3~4mm latis; sori in frons superioribus utroque latere costae segmentorum mediales; indusium reniforme margine integrum 0.8 mm latum.

Nom. Jap. Kumaoshida (J. S. nom. nov.)

Hab. Hondo: Prov. Suruga: Ohbuchi (Tokuda, 1938)

里見信生※ 伊豆大島植物雑記 (三)

N. Satomi: Miscellaneous Notes on the Plants of Isl. Ohshima, Prov. Izu (3)

7) 伊豆七島新産植物 この大島で未報告の種類としてヒロハテイショウソウ, マツカゼソウ, フジウツギ, ハコネシダの4種をあげる。其等は大島で新らしく見出されたばかりでなく伊豆七島の他島でも未だ採集されていない。最近, 地方植物誌の出版が次々になされるが, 伊豆七島に近い千葉県・神奈川県のものがいずれも今年に入つて印刷発行された。上記の種類をそれ等を引用して比較対照して見たのが次表である。

書名 植物名	宮代周輔: 神奈川県植物目録 (昭和33年2月)	千葉県生物学会: 千葉県植物誌 (昭和33年6月)
ヒロハテイショウソウ	記載なし	記載なし(然し筆者は清澄山産の標本を見ている)
マツカゼソウ	葉山(二子ノ谷), 大山, 箱根, 塔ヶ岳, 丹沢山, 津久井ノ山間, 鎌倉, 大船, 煤ヶ谷, 登戸, 真鶴	上総: 廉野山, 三石山, 光川, 清澄山; 安房: 大山
フジウツギ	大山, 塔ヶ岳, 丹沢山, 箱根, 愛甲及津久井ノ山間	上総: 清澄山
ハコネシダ	鎌倉, 逗子, 大山, 箱根, 山北, 塔ヶ岳, 丹沢山, 大船, 煤ヶ谷, 玄倉, 中(鷹取山)	下総: 成田; 上総: 睦岡, 関豊, 正気, 三石山, 清澄山, 鋸山; 安房: 和田

この表で見られる如く, それぞれの種類は大体に於て, 千葉・神奈川の両県に存在する。大島は本州に最も近い島であるから, 先ず千葉・神奈川の両県又は伊豆半島辺りから分布して来たものと考えるが, 特に私は房総半島との連関を考えたい。その理由として大島の最多風向を見ると北東の風が吹く頻度がかかなり高い事である。上記の植物が必ずしも皆風散に適するものとも言えないかも知れないが, 少くともそれ等の種子は微細であつたり, 冠毛或は翼を具えている事実とそれ等が大島の東・北部方面に生育している事と考えあわせ

※ 金沢大学理学部植物分類学研究室